

令和6年1月17日

豊田市長 太田 稔彦 様

逢妻地域会議
会長 岡田 一

答 申 書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の7第2の規定に基づき諮問を受けたことについて、下記のとおり答申します。

記

1 【仮称】ミライ構想の方向性（素案）に対する考え

（1）めざす姿について

逢妻地域においては、高齢化が進行するなか、地域活動での「つながり」がより一層求められている。そのため、めざす姿について「妥当である」と考える。

<意見>

- ・逢妻地域には、伝統文化の棒の手や、逢妻女川などの自然の魅力があり、子どもたちにもその魅力を伝えるとともに、地域に愛着を持ってもらうきっかけとすることは重要だと考える。よって方向性は妥当。
- ・「人と人とのつながり」を深めるには、スポーツも効果的だと考えるので、地域でスポーツ活動をしやすい環境があるとよい。
- ・コロナ禍で地域内の「つながり」が希薄になってしまったので、逢妻地域内でも「つながり」を意識した活動が必要。

（2）まちづくりの基本的な考え方について

まちづくりの基本的な考え方について、「賛同」する。逢妻地域では、「変える」ことと同時に、文化や自然、地域内のつながりなど、今あるものを生かすことも重要であると考えます。

<意見>

- ・逢妻地域では、今後まちづくりを進める自治区等の地域組織が意識を変え、積極的に若者と関わるようにすることが必要と考えるため、賛同する。
- ・逢妻女川などの自然や伝統文化、自治区の行事はこれまで地域で大切にできてき

たので、これらを生かして地域の「つながり」を広めていくことが必要。

- ・「変える」ことと同時に、自らが「変わる」という意識が大切だと考えるので、「変わる」という言葉を入れてみてはどうか。
- ・「変える」とは、具体的にどのようなことを指すのか、わかりやすい例があるとよい。
- ・いろいろな世代からの「変える」についての提案、情報があるとよいので、ヒアリングやアンケート等を行える機会があるとよい。例えば学生、新成人、主婦、高齢者等。

2 【仮称】ミライ実現戦略 2030 の方向性（素案）について

地域活性化のためにはこども・若者世代の地域への「愛着・誇り」が不可欠だと考えられるため、この横断的な目標に「賛同」する。

<意見>

- ・逢妻地域においては、二十歳のつどいに中学生ボランティアに参加してもらうなど、若者が地域と関われる機会を大切にしている。その目的は、子どもの頃から地域活動に参加することで地域に愛着を持ってもらうことであるので、この目標と合致する。
- ・逢妻地域には看護大学があり、自治区の行事等にも参加していただいている。若い世代に地域活動に関わってもらう工夫が今後とも必要だと考えている。
- ・「人を支える基盤（まち）」視点の中に、先進技術も加えてはどうか。
- ・地域の高校生に地域活動への参加を呼び掛ける機会がないことが課題だと感じている。市全体として高校生に地域活動に参加してもらえる工夫があるとよい。
- ・逢妻地域では近い未来国道155号豊田南バイパスが完成する予定となっているので、地域の新たな都市基盤として利便性を生かしたまちづくりをしていきたいと考えている。

3 その他第9次豊田市総合計画の策定に求めることなど

- ・総合計画はまちづくりの方向性を示す重要な計画だが、市民にはあまり認知されていないので、完成したら分かりやすいパンフレットの作成など、市民に広く周知する工夫をお願いしたい。
- ・今後さらに進行する人口減少や高齢化を念頭に置いた計画としていただきたい。
- ・逢妻地域内には公共交通機関を利用しづらい地域もあるため、高齢者向けに移動支援策を検討いただきたい。